

皮膚科で使われる外用薬

外用薬について基本的なことを紹介します

ふらの皮フ科

平成30年1月9日発行
ふらの皮フ科
病院誌発行委員会

はじめに

皮膚科で処方される薬でいちばん多いものは外用薬（塗り薬）です。しかし外用薬といっても様々な種類があり、外用薬それぞれに効果がある病気が決まっています。

今号では外用薬について紹介します。

種類

外用薬はこの表のように様々な種類があり、病気によって使い分ける必要があります。何にでも効く薬はありません。

分類	例
痒み止め 虫刺され	ステロイド外用剤 鎮痒剤
痛み止め	非ステロイド外用剤
ばい菌止め	抗菌外用剤
水虫薬	抗真菌外用剤
免疫抑制剤	アトピー性皮膚炎治療

まちがった薬を塗ると病気が悪化することがあるので注意しましょう。

ステロイド外用薬

外用薬のなかでもっともよく処方されるのが湿疹の治療に使用されるステロイド外用薬です。ステロイド

外用薬はその中でさらに種類が別れており、効き目の強さによって「最強」「非常に強力」「強力」「中程度」「弱い」と5段階に分かれています。

それぞれの強さの製品を様々な製薬会社が製造しているため、おなじ強さの薬が複数あります。強い薬のほうがそれだけ

分類	例
抗ウイルス外用剤	ヘルペスウイルス薬
抗腫瘍外用剤	
抗皮膚潰瘍外用剤 角化症・乾癬治療剤	
スキンケア製品	保湿剤
サンスクリーン剤	日焼け止め

ジネリック

ジネリックとは先発医薬品と同一の有効成分を同一量含む製剤です。しかしながら、多くの製剤は、有効成分以外は独自の成分が使用されていたり、先発品とは異なった工程で製造されていることがあります。

例えば、防腐剤としてかぶれやすいパラベン類が含まれていたたり、基剤に溶けている主薬の濃度が先発医薬品より少なかったり、皮膚への吸収が少なくなっていることがあり、先発医薬品と効果が異なることがあります。



ここに主要成分が薬の例を紹介しています。ここにある

ように各社によって薬の名前やふたの色など見た目も異なります。処方されている薬を覚えるのは大変ですので、お薬手帳にきちんと記録しておくことが必要です。

薬の塗り方

内服薬だといつどれくらい量を飲めばよいか薬袋などに書いてありますが、外用薬は塗る部位と回数くらいしか書いてないことが多いです。

外用薬を塗る量の目安として、人差し指の第一関節くらいの長さの量、ローションなら1円玉位の量が両手のひら分の範囲が塗れる量です。軟膏によって口径が異なるためあくまでも目安です。塗った後ティッシュが付く程度のべとつきがあるくらいとおぼえておくのも良いでしょう。しかし日焼け止めはこの量だと効果が発揮できないことが多いので2度塗り以上をする必要があります。クリームタイプだとパール粒大2個分、ローションタイプなら五百円玉分でおよそ顔全体塗れる量です。

塗るときにはシワに沿って（シワに平行に）ぬり、刷り込んだり叩いたりしない

いようにしましょう。塗る時間が指定されている薬剤はその時間に塗るようにしましょう。特に書いてない場合は決まりはありませんが入浴後の夜に塗布すると良いでしょう。保湿剤は入浴後10分以内に塗ったほうが効果があります。

受付時間

当院の診療時間は月火木金は午前9：00～12：00まで、午後は14：00～17：00まで、土曜日は午前9：00～12：00までです。水曜日、日曜日、祝日は休診日です。受付に臨時休診日を掲示しています。またホームページ（hifuka.hokkaido.jp）にも休診日を載せておりますので、こちらも参考にして下さい。



ご自由にお持ち帰りください